

令和6年度 自己評価計画書

							石川県立医王特別支援学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考	
(1) 授業実践力の向上	① 教科の見方・考え方の視点を意識した授業作り	教務課	昨年度から「各教科等を合わせた指導」の目標設定や学習内容、評価に教科（国語科）の視点を取り入れて考えられるようになってきた。今後は更に教科の視点を意識して授業作りを行う必要がある。	【努力指標】 教科の見方・考え方を意識した授業作りを行うことができる。	校内研究会における授業作りの協議を通して、国語科の見方・考え方の理解を深め、授業の工夫・改善に取り組んだ教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末調査 【評価対象】 教員	
(2) 安心安全な学校づくり	① 感染症等の対応を含めた学校行事の柔軟な企画・運営	病棟訪問教育	昨年度より学校行事等がコロナ禍以前の形に戻つつある中で、児童生徒、教員、病院スタッフが安心安全に参加できる学校行事等の在り方を確認する必要がある。	【努力指標】 昨年度までの行事の反省を活かしながら、各種行事について実施時期、内容、会場等について安心安全な方法・内容の企画・運営を行う。	学校行事、学部行事において、病院と密に連携し、安心安全に配慮し実施できたと感じた教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	行事实施後 中間・年度末調査 【評価対象】 教員	
	② 安全防災対策の充実	指導課	昨年度、安全防災対策として、病院の災害対応訓練の見学や教職員防災研修会を実施した。今年度は地震への対応を中心に据え、地震時の対応について確認・改善・検証を行い、安心安全な学校づくりに向けてより実際に即した対策を講じる必要がある。	【満足度指標】 児童生徒・保護者が学校の安全防災対策の内容を理解し、満足している。	地震に対する、本校の安心安全への対策について理解し、満足している児童生徒・保護者の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末調査 【評価対象】 児童生徒・保護者	
(3) 専門性の向上	① 病種理解のための研鑽	教務課 教頭	多様な病種の児童生徒が在籍しており、適切な指導のため病種理解が必要である。また、専門性の向上には医療的な知識も必要である。	【満足度指標】 病種理解の研修会等に参加し、研修内容を日々の指導に生かす。	病種理解の研修会等への参加を通して、専門的な知識が増え、今後の指導に活かすことができたと感じた教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末調査 【評価対象】 教員	
	センター的機能の充実	② 教育機関・他機関との連携	コーディネーター、専門相談員	継続的に行っている専門相談やリーフレットの配布により、県内の小中学校病弱特別支援学級担当者に本校の存在が周知されるようになってきたが、担当者が年度毎に替わる学校が多いため、今後も繋がりを維持し深めていく必要がある。	【満足度指標】 病弱特別支援学級等の担当者が、本校専門相談員への相談や情報交換会等を通して得た知識を指導に活かすことができる。	年2回の情報交換会や継続的な相談を通して、その内容を児童生徒への対応や指導に活かすことができた特別支援学級等担当者の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末調査 【評価対象】 特別支援学級等担当者
(4) 業務の効率化	① 効率的校務処理の推進	教頭	年度当初、業務を引き継ぐ際、データファイルの管理や手順表がわかりづらいという課題があった。スムーズに業務の引継ぎを行うため、データファイルの管理や手順書の見直しを行う必要がある。	【成果指標】 各課等におけるデータファイルの管理や手順書の見直しを行い、効率的な校務処理に向けて改善する。	各課等において業務内容の共通理解を図り、効率的に校務処理を行うため、データファイルの管理、手順書、ファイル等の見直しなどの改善を2つ以上行った教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末調査 【評価対象】 教員	